

# AV ニュース エクスプレス

「New Education Expo 2002」  
「情報メディア学会研究大会」  
「第43回科学技術映像祭」  
メディアポスト2001～「総合的な学習の時間」成果発表コンテスト  
(財)松下視聴覚教育研究財団「第28回実践研究助成」  
同「第9回研究開発助成」  
「2002年ICEM会員募集」

## 研究会情報

「New Education Expo 2002」開催

New Education Expo実行委員会では、学校教職員、教育委員会等教育関係者を対象に標記セミナー及び展示会を全国6か所で開催する。

<日程>

東京会場：5月9日(木)～11日(土) 有明TFTホール / 大阪会場：5月15日(水)～17日(金) ハービス大阪 / 福岡会場：5月24日(金)～25日(土) 博多スターレーン / 名古屋会場：5月28日(火)～29日(水) ナディアパークデザインセンター / 岡山会場：6月3日(月)～4日(火) 岡山コンベンションセンター(ままかりフォーラム) / 仙台会場：6月21日(金)～22日(土) 仙台国際センター

<セミナー>

『新学習指導要領に対応した教材整備』『教育の情報化』『環境対応施設設備』『あたらしい学校づくり』『これからの授業運用実践』等をテーマとしたセミナー

<展示>

教育関連の教材やソフト、授業支援システム等

<参加費>

入場無料

<問い合わせ先>

事務局 東京都江東区潮見2-9-15(株)内田洋行 教育システム事業部内 New Education Expo実行委員会事務局 担当 竹内 / 宇多 電話03-5634-6397

## 学会情報

「情報メディア学会研究大会」開催

情報メディア学会では、基調テーマを「e-Learning」とし、これに関する基調講演、シンポジウム、展示・デモからなる標記研究会を開催する。

<日程>

平成14年5月11日(土)

10:00～19:00

<会場>

日本科学未来館(東京都中央区青海2-41)

<参加費>

会員1,000円 非会員1,500円

(資料代を含む)

<研究大会の構成>

基調テーマ：「e-Learningの現状と将来、その情報メディア研究との関わり」

基調講演：「e-Learningの展望と研究」講師 / 清水康敬氏(国立教育政策研究所教育研究情報センター長)

シンポジウム：「e-Learning

## ブックレビュー



## 「教育とメディア」

「教育とメディア」論集刊行会編 財団法人日本視聴覚教育協会刊  
2002年2月刊 A5判 433頁  
2,500円(税込)

「まえがき」によれば、本書は国際基督教大学の中野照海教授の退職を記念して編まれた論集である。中野教授についてはあらためて紹介するまでもないであろう。

本書の執筆者は、編集委員ををつとめた新潟大学教授 生田孝至、学芸大学教授 篠原文陽児、日本放送協会教育番組プロデューサー 青木繁の3氏をはじめ、国際基督教大学で学生・院生・内地留学生として指導を受けた人びとを中心に、先達の筑波大学名誉教授 大内茂男氏やメディア教育開発センター教授 佐賀啓男氏、東京大学大学院教授 浜野保樹氏、社会的活動の中で協力しあった人びとなど、58人に達する。

そして、それぞれが中野教授を語るのではなく、中野教授か

ら学びとり、現在の仕事の中で活躍している現場に即した「教育とメディア」との関わりについての短い文章を寄稿しているのである。

「花束は勘弁」といい、派手なことのない同教授への感謝が、こういう内容の濃い論集に集約されたことは、同教授にふさわしい記念であると思うし、そうした形で、ひとつひとつが貴重な文章としてまとめられている作品を捧げられた執筆者の熱い思いと力量にも敬服させられる。

その意味で、本書は、「教育とメディア」との関わりに関心をもち、活躍している、あるいは活躍しようとしている人びとに、展望を与えてくれる、貴重な論集である。

(高井 康雄)

への取り組みと情報メディア」パネリスト/伊藤洋一氏(信託基礎研究所)真邊一近氏(日本大学総合社会情報研究科)明田英治氏(ベネッセコーポレーション)増田和子氏(図書館情報大学大学院)

e-Learningに関するシステム、製品の展示、デモ

ポスター形式による研究発表  
<申し込み方法>

氏名・所属・連絡先電話番号・電子メールアドレスを明記し、5月8日(水)までに下記へ申し込む。

<申し込み/問い合わせ先>  
情報メディア学会事務局 担当:小野寺夏生/住所:〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2 図書館情報大学内/FAX: 0298-59-1364

E-mail: onodera@ulis.ac.jp

## コンクール情報

「第43回科学技術映像祭」  
入選作品決定

(財)日本科学技術振興財団、(財)日本科学映像協会、(社)映像文化製作者連盟、(財)つくば科学万博記念財団の共催による標記映像祭が開催された。審査の結果、映画(フィルム・ビデオ・DVD)及びテレビ番組の参加作品83本の中から、次の主な入選作品が決定した。  
<内閣総理大臣賞>(1作品)  
科学教育部門「深海3572メートルに生きる 室戸沖南海トラフ4年間の記録」(ビデオ作品)企画製作/岩崎望(高知大学海洋生物教育研究センター)岩井雅夫(高知大学理学部)(株)東京シネマ新社(映像提供:海洋科学技術センター)  
<文部科学大臣賞>(14作品)



科学教育部門、基礎研究部門、科学技術部門、医学部門、ポピュラーサイエンス部門、それぞれから計14作品が選出された。詳細は下記のWebサイトを参照。

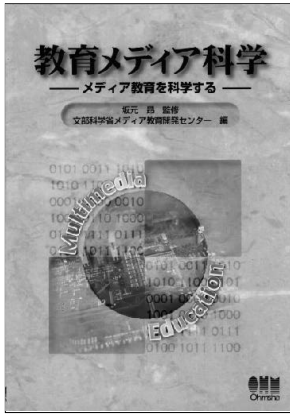
<入選作品上映会>

全国15か所です4月から12月にかけて、入選作品の上映会が開催される。詳細は下記のWebサイトを参照。

<問い合わせ先>

(社)映像文化製作者連盟 電話03-3501-0236  
<http://ppd.jsf.or.jp/shinko/pro/s-m/43/index.htm>

ブックレビュー



「教育メディア科学 メディア教育を科学する」

坂元 昂 監修 文部科学省メディア教育開発センター編 2001年12月刊 A5版 264頁 3,800円(税別)

本格的な教育メディア研究の単行本で、教育とメディアの関わりを一望できる好書である。坂元が、メディアと教育改革の変遷と、その意味について考察しており、この分野の研究者によって引用される文献となろう。また、教育メディア研究の流れも記述されているが、その中でメディアの比較研究について言及し、論じている。メディア研究には、強いメディア論と弱いメディア論があって、メディアの効果を強く主張する立場と、学習活動にあまり強く寄与しない立場がある。これらをきれいに、まとめている。

近年の学習コミュニケーションにおけるメディアの役割についても述べ、参加共同学習の特徴についての視点は、示唆に富む。コミュニティーへの参加の

タイプを分類し、その分類に学習理論を対応付けている記述は、新しい視座を与えている。

さらに、メディア著作権にも記述していることは、注目に値する。ネットワークの時代になって、多様なメディアを用いた作品などを制作することが可能になったが、著作権の問題が最も大きい課題になっている。この問題についての専門家の記述は、読者の参考になる。

以上のように本書は、メディアと教育の変遷から教育改革との関連、視聴覚教育の系譜、今日の新しい状況論的な学習とメディアとの関連、バーチャルリアリティー、そして著作権にいたるまで、きめ細かく記述されている。基本文献として、座右に置いていただきたい。

(赤堀 侃司)

メディアポスト2001～「総合的な学習の時間」成果発表コンテスト受賞校決定

メディアポスト実行委員会主催による標記コンテストの受賞校が決定した。本コンテストは「総合的な学習の時間」をテーマに、全国の小・中学校で実践された子どもたちの学習成果をホームページで公開している作品(非公開も応募可)を広く募集し審査を実施した。

今年の傾向としては身のまわりの環境や伝統、職業体験をテーマにしたものが目立った他、ADSL等高速回線の普及からか、映像コンテンツによる応募も多数寄せられた。主な受賞先は下記の通り。

<文部科学大臣奨励賞>

小学校部門：「庄南地区は滅ぶるか」富山県砺波市立庄南小学校6学年 / 中学校部門：「はや

くおいでよ新入生」大分県中津市立豊陽中学校1年1組

<優秀作品賞>

小学校部門：「亀高観光開発」島根県仁多郡仁多町立亀高小学校5学年 「ジャマ田ウイルスをやっつける」和歌山市立有功東小学校パソコン部 / 中学校部門：「民族学に挑戦しよう！」兵庫県福崎町立福崎東中学校2学年 「ふるさとタイム」香川県土庄町立豊島中学校パソコン部 「集中選択ストップモーションアニメ1.2」滋賀県滋賀大学教育学部付属中学校3学年 選択美術

(財)松下視聴覚教育研究財団「第28回実践研究助成」第9回研究開発助成」助成先決定

当財団による標記助成先が決定した。「実践研究助成」は視聴覚・情報メディアの効果的な活用及び教材開発に関する実践

的な研究計画への助成を行い、(助成総数76件)「研究開発助成」は視聴覚・情報メディアを活用してより豊かな人間性を育成する研究や、新しいメディア活用の方向性を示唆する研究開発(助成総数15件)へ助成を行うものである。

<助成先>

(財)松下視聴覚教育研究財団のホームページ参照

<http://www.mef.or.jp/>

海外情報

2002年I C E M会員募集

I C E Mとは International Council for Educational Media (国際教育メディア協議会)のことで、視聴覚教材の製作、配給、情報提供に関する加盟各国の協力を奨励するために作られた協議会で、時代のメディアに

## エル・ネット

4月放送予定

各番組は、エル・ネットを利用し、全国1800か所の受信施設（公民館・図書館・学校・生涯学習センターなど）に放送されている。

子ども放送局

10:30～15:30 1ch

6日「VTR番組」

子どもとしゃかん/いきもの歳時記(さいじき)～春の風物詩(ふうぶつし)・サクラ～/CHALLENGE～スポーツを支えるものたち～/のぞいてみよう知らない世界～科学探偵団 音の事件ファイル

13日「科学・技術」

夢スタジオ1030「科学・技術」ソーラーにける夢～東京電気大学 藤中正治工学博士と学生たち～/ソーラー博士登場/太陽電池ってなに?/あくせんくとう!ソーラーカー開発/ソーラー博士からみんなへのメッセージ

20日「VTR番組」

子どもとしゃかん/いきもの歳時記「身近にいる鳥や昆虫や草花などで季節の移り変わりを感じよう!」～春の女神・ギフトチョウ～/研究室におじゃまします「土ってどうやってできているの」/のぞいてみよう知らない世界「富士山の科学」科富士山植物図鑑

27日「手芸」

チャレンジ教室「手芸(手遊び)」結んでみよう!～「結び」の七変化～教えてください先生...前島一義さん(東京商船大学

委託教官)/結びの基礎/結びの応用/ロープやひもを使った遊び

生中継の番組では、質問・意見をファックス、電子メールで募集中!

FAX 03-5790-8154

http://www.kodomo.nyc.go.jp

問い合わせ

国立オリンピック記念青少年総合センター 子ども放送局係  
電話 03-3467-1600

科学史学校

14:00～16:00 1ch

7・10日(10日は7日の再放送)

「戦時期日本における天然記念物と科学者」

篠田 真理子(東京大学)

問い合わせ

国立科学博物館

電話 03-5814-9874

関心の深い国々約30か国が協力しあっている組織である。ICEMでは、加盟国それぞれに代表会員を設ける制度がある(日本は日本視聴覚教育協会)。また、希望すれば会員になれる個人会員、小・中・高等学校会員、公益法人・大学・専門学校会員、企業会員、学生・退職者会員の5種類の会員制度がある。現在、日本からは個人会員が12名、企業会員1社が登録されている。

2002年の会費は、個人会員で85ドル(年4回の機関誌代と資料等の郵送料で9000円)。会員になれば、ICEM主催の「国際教育メディア週間」(世界の教材見本市)、や「国際研究集会・年次総会」(今年は10月にスペインのグラナダ)に参加でき、ICEMや協会からの情報や資料が送られる。お問い合わせ

は、日本視聴覚教育協会佐藤まで。電話03-3591-2186

## 短 信

文部科学省学習情報政策課の異動

課長尾<sup>■</sup>春樹氏 初等中等教育局児童生徒課長(後任・大臣官房企画官兼主任教育改革官<sup>■</sup>原靖氏)/課長補佐(併室長)藤吉尚之氏 九州大学総務部総務課長(後任・開発局原子力課補佐関根仁博氏)/メディア係長中村司氏 千葉県教育庁学校指導部指導課指導主事(後任・千葉県情報教育センター調査資料部研究指導主事眉山俊敬氏)/メディア係映画審査担当高木貴氏 政策課総務係(後任・社会教育課企画調査係川上恵子氏)/メディア係野沢新吾氏 東京大学大学院経済

学研究科・経済学部大学院掛(後任・東京大学学生部学生課体育第二掛木船聡氏<sup>○</sup>併任)/学習情報係主任山下勝弘氏 同係長(昇任)/企画調査係風間広幸氏 国立教育政策研究所教育研究情報センター情報支援課運用管理係(後任・生涯学習推進課放送大学進行係船木茂人氏)

(財)松下視聴覚教育研究財団は4月15日より下記住所に移転する

〒105-0001東京都港区虎ノ門1-14-1 郵政互助会琴平ビル5階 電話03-5521-6100 FAX03-5521-6200

東京シネ・ビデオ(株)は3月11日より下記住所に移転した 〒103-0022東京都中央区日本橋室町1-8-8 ちはやビル6階 電話03-3242-3151(代) FAX03-3242-3182